

令和5年度

# 穴吹中学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教えから学びへ重点を置く・気づき考え育つ授業改革
  - ・一人一人が輝く授業～すべては授業の中にある～
  - ・いつでもだれでもどこでもオープン授業の学び合い

## 学力向上検討委員会構成

|               |   |
|---------------|---|
| 学力向上推進員       | 委員  |
| 主幹教諭<br>佐藤 美幸 | 校長 横島 亜希子<br>教務 宇山 壮史<br>教頭 垂水 恵子<br>3年主任 坂東 美智 |

校長  
横島 亜希子

### 【各校の取組状況の把握について】

全職員による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

### (1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)   | 具体的方策(教員の取組)  | 中間期の見直し | 達成状況(評価)  | 次年度における改善事項   |
|--|--|---|---------|---|---|
| ○意欲的に取り組むことができ、タブレット等を使いながら、自主的に調べ、知識・技能を習得している。<br>●定着の個人差が大きい<br>●調べ学習がネットだけの情報になってしまい、本を読むことや友達と共有することが減ってきている。 | ・セルフタイムマネジメントを含め、自ら工夫して家庭学習に取り組むことができる。<br>・自分なりの学習方法を身につけることができる。 | ・授業内容・活動の取捨選択。<br>・タブレットを活用した効果的な家庭学習の工夫。<br>・朝の自主学習で国語・英語・数学の基礎基本の力を育成。<br>・効果的なICTの利活用。 |         | ・アプリ等を活用し、基本の確認をゲーム感覚ですること、定着を図ることができた。<br>・技能教科等では、知識として教えるだけでなく、実習等を行い、体感することで身につけることができた。<br>・朝の自主学習で範囲を指定して繰り返し学習をすることで、基礎基本の補強することができた。ただ、朝学習の時間が宿題をする時間になっている生徒もいた。 | ・朝学習の時間の使い方を考える。<br>〔今まで通りの基礎基本の定着<br>読書習慣の確立<br>スタディサプリの活用〕<br>・家庭学習の意味づけをする。<br>・授業内容・活動の取捨選択をする。 |

### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)   | 具体的方策(教員の取組)   | 中間期の見直し | 達成状況(評価)   | 次年度における改善事項   |
|--|--|--|---------|--|---|
| ○ファシリテーションの技術が身につく、話し合いを深めることができる。<br>○授業ごとにめあての確認と、振り返りをする習慣が身についている。<br>●新しい考えを創造するなどについて、個人差が大きい。 | ・ファシリテーションの技術をさらに磨き、自分で考えをまとめたり書いたりすることができる。(R80も含む)<br>・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、話したり書いたりすることができる。 | ・生徒自身が「ここまでは到達したい」と思うような、自らゴールを設定できる仕掛け作り。<br>・アウトプットを重視した授業づくり。<br>・ICTを効果的に利活用することで、生徒が主体的に活動する時間を確保する。<br>・国語カタスクフォースの推進。 |         | ・授業の中で「自分の言葉で説明をする」時間を多く取り入れたことで、テストの無解答を減らすことができた。<br>・タブレットを活用したり、ホワイトボード・ミーティング®を取り入れたりして、自分で考えをまとめたり書いたりする力を伸ばすことができ、互いに共有することでさらに深く考えることができた。<br>・自分一人で考えることが苦手で、すぐに人に聞いてしまい深く考えないことがあった。 | ・一人でじっくり考える、みんなで協力して考えるなど思考の場面を工夫する。<br>・授業にメリハリをつけ、何をしているのか全員が周知できるような手立てを考える。<br>・個々の生徒に応じた思考の手立て(図・表・言葉など)を示す。 |

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)  | 具体的目標(目指す子供の姿)                | 具体的方策(教員の取組)  | 中間期の見直し | 達成状況(評価)  | 次年度における改善事項  |
|---|-------------------------------|---|---------|---|--|
| ○ICTの活用等により授業や家庭学習に意欲的に取り組める生徒が増えている。<br>●家庭学習の定着・セルフタイムマネジメントができていない生徒がいる。 | ・自らの目標を明確にして計画を立てて取り組むことができる。 | ・自ら課題を設定する家庭学習。<br>・内容ではなく、学び方を身につけさせる方策をたてる。<br>・目標を明確にして計画を立てていることを習慣化。セルフマネジメント力の育成。<br>・個別最適化と協働的な学びの推進。<br>・アシスタントティーチャーの育成。 |         | ・アシスタントティーチャー制で学び合うことができ、自分の言葉で説明できるようになった。<br>・家庭学習に課題はあるが、帰りの学活で今日の自分の宿題を個々に考えることで、提出率を上げることができた。 | ・アシスタントティーチャーをさらに育成し、互いに学び合う授業を考える。<br>・個々が学習課題を認識するとともに、学びに向かう力をつけるための手立てを考える。<br>・提出物を出す習慣をつける。<br>・自分を磨くためには何をすべきかを考えさせる。 |

## 令和5年度 学力向上ロードマップ

